

餞の辞

卒業生の皆さん、そして大学院を修了される皆さん、本日は誠におめでとうございます。

多くのご家族の皆様には、心よりお慶び申し上げます。

晴れの門出に際しまして、私から「はなむけ」の言葉をお贈りします。

学部を卒業する皆さんは、入学したての頃のことを覚えていますか？あの頃はまだ幼かったなあと思いませんか？皆さんは、この4年間にいろんなことを経験し、多くのことを学び、確実に成長したことと思います。

長野県立大学はとてもユニークな大学です。

皆さんは社会に出ると、すぐに全国津々浦々の大学を卒業した仲間に出会うことになるでしょう。彼らと話をすれば、自分たちの大学は少し変わった位置にあったことに気づくはずです。

中には東京の有名大学を出た人もいるでしょう。一見華やかそうに見える彼らにも、できなかったことは沢山あります。1年次の寮生活、2・3年次の海外研修、地域につながるソーシャル・イノベーション、英語集中プログラム、少人数のクラスやゼミなど。こうした長野県立大学ならではの教育プログラムは、開学時からの熱い思いが詰まったものです。地域や関係者の皆様から様々なサポートを得て、安藤前理事長、金田一学長のリーダーシップのもと、全教職員が力を合わせて発展させてきたものです。この4年間に皆さんは他大学の人たちとはひと味もふた味も違う、特色ある学修体験をし、このキャンパスや地域ですばらしい人々に出会ってきました。このことにぜひ誇りと自信を持っていただきたいと思います。

この大学に来られる多くの来訪者から度々聞く言葉があります。

「この大学に来ると、何か癒やされるだけでなく、学生たちの元気な姿に励まされる思いがする」というものです。

皆さんがここに集い、学び、くつろぎ、ご飯を食べ、語らい、活動しているすべての営

みが、実は我々にはいとおしく見えるのです。

殺伐とした、無機質で、管理されたスペースとは違い、この空間を皆さんがあたかも自分の家のように感じている。そのこと自体に、奇跡のような、心暖まる思いがします。しかも、ここは「学びの場」であり、何かを学ぼうという若い皆さんの活気が伝わってくる。だからこそ、その姿が一層頼もしく見えます。

4年間、そういう空間を仲間や先生方と共有できたことは皆さんにとって人生の宝になると確信します。

多くの皆さんは今日をもってここを巣立ち、4月からは社会人の仲間入りをします。そこではまたイチから新しいことを学ぶことになるでしょう。

仕事の知識、組織の流儀、人間関係、お客様の扱い方、社会人のマナー。

最初は戸惑うかもしれませんが、心配いりません。赤ん坊がいずれ言葉を話し出すように、誰もがそうしたことをマスターして一人前の社会人に成長します。

むしろ、私は皆さんに、新しい社会の担い手としての役割を強く期待します。それは何かと言えば、若い皆さんにしかできないこと。新しい時代の風を運び、新鮮な感覚を生かして、変化を生み出すことです。

皆さん、古代中国の孔子という学者を知っていますね。

この孔子の「論語」に「後生、畏（おそ）るべし」という言葉があります。後から生まれてくるもの、つまり若い人というのは、将来どこまで伸びるかわからないほどの可能性に満ちている、だから決して侮ってはいけません。

「畏るべし」というのは怖いという意味じゃなくて、「畏（かしこ）まる」、つまり、リスペクトするということですね。これは社会全体に対するメッセージでもあります。私は、若い皆さん自身に向けた言葉でもあると思います。

若い時は自分の可能性の大きさ、若さの価値に気づかないものです、私のように還暦も過ぎると、「ああ、若いってほんとうにすばらしい！」心の底からそう思います！
どんな大富豪が何兆円払っても若さだけは買えない！君らはそんなすばらしい可能性

を秘めた存在です。

未来は間違いなく君たちのものです。臆することなく、自らのポテンシャルを存分に生かして、社会の発展に貢献してください。

大学院を修了される皆さんにも一言申し上げます。

働きながら学ぶことは口でいうほどたやすいことではありません。その挑戦を立派に成し遂げた皆さんに私は心から賞賛の拍手をお送りします。ここでの学びと研究成果をぜひ地域、そして社会に還元してほしいと思います。

本学はこの春に開学8年目を迎えます。

開学以来蒔かれた種が芽を吹き、確実に成長しています。

私は理事長として、この立派な伝統を引き継ぎ、この大学を「豊かな森」に育てていきたいと思っています。

そして、皆さんはいつでもここに戻ってくるのが可能です。大学院や公開講座、イベントなどで再び学ぶこともできます。

長野県立大学は単なる「思い出のアルバム」の一頁（いちページ）ではなく、皆さんの人生の一部なんだと思ってください。

これからの人生には、辛いときもあるかもしれません。人生は山あり、谷ありです。いろいろあるのが人生で、誰もが悩みながら成長するわけです。

でも、いつまでも悩んで下を向いているわけにはいきません。

しんどい時こそ、「明るく、楽しく、前向きに」そういう気持ちを少しでも思い出してほしいと思います。

涙を流した後は、上を向いて、微笑みましょう。皆さんのそうした姿勢に共感を覚え、応援してくれる人がきっと現れるはずです。

人生は長い、だから焦ることはありません。自分の山を見つけて、自分のペースで登ってください。

私は、皆さんが「人生の勝者」になられんことを心よりお祈りしています。

最後になりますが、ご来賓の皆様方には、日頃からのご支援に改めて感謝申し上げます。
こうして素晴らしい卒業生を送り出せる喜びを、皆様とともに分かち合いたく思います。
本日は誠におめでとうございます。

令和7年3月14日

公立大学法人長野県立大学 理事長 佐藤 慎次郎